

## 九州の自治体と初締結！

ひじまち  
大分県日出町と再生可能エネルギーに関する連携協定を締結しました

横浜市は、2050 年までの脱炭素化の実現に向けて、地球温暖化対策・エネルギー施策を強化し、持続可能な大都市モデルの実現に向けた取組を進めています。この取組の一環として、再生可能エネルギー（以下、「再エネ」という）資源を豊富に有する 17 自治体と再エネに関する連携協定を締結し、再エネの普及拡大に取り組んでいます。

このたび、取組を更に強化するため、九州の自治体では初となる、大分県日出町と連携協定を締結しました。本連携協定により、再エネの連携とともに、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏<sup>※1</sup>」の理念に基づき、相互の連携を強化して脱炭素社会の実現を目指して取り組んでいきます。

## 1 連携協定について

## (1) 概要

横浜市の再エネの創出ポテンシャルは 2050 年の市内の電力消費量の約 10%と試算され、再エネへの転換に向けて、2019 年 2 月からこれまでに再エネ資源を豊富に有する 17 市町村と再エネに関する連携協定を締結し、市域外からの再エネの活用に取り組んでいます。

大分県日出町とは、2025 年 7 月に日出町が SDGs 未来都市<sup>※2</sup>に選定されたことを契機に、同じく SDGs 未来都市に選定されている横浜市との交流が生まれ、本協定の趣旨にご賛同いただいたことから、今回、再エネに関する連携協定を締結しました。本市が九州の自治体と再エネ連携協定を結ぶのはこれが初めてです。

今後、本市が公民連携で推進する広域連携再エネ電気メニューの「はまっこ電気 Plus」を通じて、日出町に立地する太陽光発電由来の再エネが本市の事業者へ供給されます。また、横浜市庁舎での再エネ連携物産展等を通じ、相互の地域活性化に関しても取り組んでいきます。

連携協定の締結にあたり、日出町役場にて行われた協定締結式に、平原 敏英 副市長が出席しました。

※1：各地域がその特性に応じた地域資源を生かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と地域資源を補完し支えあうことで、地域を活性化させるための考え方。第五次環境基本計画（2018 年 4 月閣議決定）にて提唱

※2：地方創生 SDGs の達成に向け、優れた SDGs の取組を提案する地方自治体を「SDGs 未来都市」として選定し、その中で特に優れた先導的な取組を「自治体 SDGs モデル事業」として選定して支援し、成功事例の普及促進を図る取組

裏面あり



GREEN×EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## ■協定締結式の様子（2026年3月25日(水)）



【左】安部日出町長 【右】平原横浜市副市長

締結式の様子

※協定締結式の写真データをご希望の方は、下記連絡先までご連絡ください。

【連絡先】 e-mail : da-saiene@city.yokohama.lg.jp Fax : 045-550-3925 Tel : 045-671-4155

### （参考1）はまっこ電気 Plus

連携先自治体の再エネ発電所由来の環境価値を活用した実質 CO<sub>2</sub>フリー電力を、市内需要家に供給する電力メニュー。当該環境価値等は株式会社まち未来製作所及び東京電力エナジーパートナー株式会社が調達し、東京電力エナジーパートナー株式会社の電気料金メニューとして市内需要家に供給する仕組み

### （参考2）これまでに連携協定を締結している17の市町村

- ・青森県横浜町
- ・岩手県久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町
- ・秋田県八峰町、大潟村、湯沢市
- ・福島県会津若松市、郡山市、いわき市
- ・茨城県神栖市

## （2）連携内容

日出町と横浜市は、脱炭素社会の実現を目指しながら、再エネの活用を通じた地域活性化等の取組を推進するため、以下の事項について、相互に連携をして取り組んでいきます。

- （1）再生可能エネルギーの活用を通じた地域活性化及びSDGsの推進に関すること
- （2）再生可能エネルギーの創出・導入・利用拡大に関すること
- （3）再生可能エネルギー及び地域循環共生圏の構築に係る国等への政策提言に関すること

次頁あり



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## 2 大分県日出町について

### (1) 概要

人口：27,584人 世帯数：12,963世帯（令和8年1月末時点） 面積：73.26km<sup>2</sup>

日出（いづ）る町と書いて「ひじまち」と読む日出町は、大分県のほぼ中央、瀬戸内海に丸く突き出した国東半島の付け根に位置し、北にはキリスト教宣教師フランシスコ・ザビエルも通ったとされる鹿鳴越連山がそびえ、南には別府湾を望み、約25kmにわたる美しい海岸線が続く、景観に恵まれた、歴史と自然が調和した、文字どおり陽光あふれる温暖な気候の町です。

町では鹿鳴越連山に降り注いだ雨水が湧水となり、湧き出した湧水と深井戸は町の上水道の全てを賄っています。また、豊富な湧水は海へと流れ込み、江戸時代の参勤交代のうちに、将軍家への献上品とされ、天下の美味とも称された「城下かれい」に代表される海の幸を育てています。

町の特産品としては、全国を代表する銘酒「大分むぎ焼酎二階堂」が有名で、全国各地で皆様に長く愛され続けています。「大分むぎ焼酎二階堂」にも、この町の良質な湧水が使用されています。

観光面では、世界的に人気の高いハローキティをはじめとしたサンリオキャラクターと出会える屋外テーマパーク「サンリオキャラクターパーク ハーモニーランド」があり、毎年、多くの観光客が町を訪れます。1991年4月の開園以来、ハーモニーランドは町のシンボリック観光施設であり、2016年12月からは「ハローキティとくらすまち ひじ」のキャッチフレーズのもと、株式会社サンリオエンターテインメントと連携し、観光客の誘致や移住定住の促進、地域の活性化に取り組んでいます。



### (2) SDGs 未来都市及び再エネについて

日出町は、温暖で穏やかな気候と青い海、緑の山々、綺麗な湧水等豊かな自然を未来に繋ぎ、誰もが安心して暮らせる脱炭素社会を実現するため、2024年12月に「日出町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、2050年までに町内の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言しました。



また、2024年10月には、SDGsを原動力とした地方創生を推進し、より良い未来を次世代に引き継いでいくため、「地方創生SDGsの推進」を宣言し、SDGs日本モデル宣言の賛同自治体となりました。2025年7月には、SDGs未来都市に選定され、自然環境と調和した豊かな暮らしを未来へつなぐまちづくりを進めています。

日出町に導入されている太陽光発電による発電量は196,985MWh（発電容量149,602kW）です。この発電量は日出町の電力消費量176,954MWh（2022年数値）の111.3%を占めています。

#### お問合せ先

脱炭素・GREEN×EXPO推進局循環型社会推進課長 松下 功 Tel 045-671-2636



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

